

令和6年度 第2回 三重県河川整備計画流域委員会 議事要旨

日時：令和6年12月19日（木）

13:30～14:30

会場：伊勢庁舎 3階 301会議室

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 議事

江川水系河川整備計画について、以下の通り議事を行った。

【委員】

江川流域内には水田が多いが、遊水地として利用する計画はあるか。

【事務局】

現在、江川の河川計画では遊水地の整備は位置付けていませんが、三重県では現在、田んぼダムの普及啓発に取り組んでおり、水田が多い流域には効果的と考えますので、今後、農林部局とも協力して田んぼダムの取組を推進していきたいと考えています。

【委員】

資料1-1のP.3にある内水区域の定義は何か。

【事務局】

内水区域は、本川水位が高いときに自然排水できないような地盤の低い区域です。

【委員】

江川では過去の洪水で内水被害が生じているが、人的被害が生じたことはあるか。

【事務局】

過去の記録からは人的被害は確認されていません。

【委員】

江川流域外からの外水による被害は生じないのか。また、流域外からの外水に対する対策は、今回の計画に取り入れるのか。

【事務局】

江川流域は低平部であり、外城田川など隣接する流域からの外水被害は生じ得ると考えており、それぞれの河川において治水対策を行っていきます。

【委員】

隣接河川は三重県の管理であるのか。

【事務局】

大堀川と外城田川は三重県の管理ですが、江川西側の河川は、三重県管理ではありません。

【委員】

生物の現地調査は10月に実施しているため、他の季節に確認できる大事な種が確認できていないことを想定して検討してほしい。例えば植物や鳥類等で春季に確認できる種が確認できていない。

【委員】

鳥の場合、春の渡りの時期に立ち寄り鳥類がみられる可能性がある。年間を通じて季節ごとに調査をしないと、自然界のそれぞれの種の出現時期、鳥類の渡来時期等をとらえきれない。

昆虫類では、汽水域に生息するヒヌマイトトンボ等が生息している可能性がある。ヤゴであれば、10月に実施した現地調査で確認されている可能性があるが、成虫を確認する場合、5～7月に調査を（6月下旬が望ましい）実施する必要がある。

【事務局】

現地調査の実施は、通常1回としています。

しかしながら、過去に重要種の存在が確認されていれば、重要種に限っては、調査時期に配慮する必要があると考えます。江川における追加調査については、検討させていただきます。

【委員】

資料1-1のP.38に記載の水質調査について、調査の時期や頻度はどの程度か。

【事務局】

確認のうえ、資料に明記します。

【委員】

資料1-1のP.21に記載の平成29年10月（台風第21号）による浸水被害について、伊勢市全域の水害区域面積や被災家屋棟数が整理されているが、江川流域のみの数値は整理されていないか。

【事務局】

本被害情報は、伊勢市から提供を受けたものですが、江川流域のみの数値は整理されていません。